

## 病院年報（平成22年度）：国際保健医療科

### 1. 国際保健医療科の沿革と活動概要

国際保健医療科は、平成6年（1994年）10月に佐久総合病院の地域医療や農村医学研究の経験と成果を生かして、国際協力活動を進めるため設立された。1999年制定の病院理念と行動目標には、“中国ならびに途上国における国際保健医療協力”を掲げてあるが、中国での活動は、歴史的に国際農村医学会やアジア農村医学会を通じての活動による。国際保健医療科は、中国以外の途上国相手の活動が中心となっている。国際保健医療科の発足前後には、滞日外国人医療相談や、外国人 HIV・AIDS 患者の帰国支援を実施した。1997年—1999年には、国際保健医療協力の一つとして、出浦が JICA 専門家（チーフアドバイザー）としてガーナ保健人材育成プロジェクトに派遣され、途上国における医療協力のノウハウを学ぶことができ、その後の当科の活動の基礎となった。JICA 短期専門家としては、その後も、フィリピン、セネガル、ラオスなどに派遣され、JICA 保健医療プロジェクトに協力した。このような活動を背景にして、1999年以降の国際保健医療科の主な活動として、途上国からの研修員受け入れによる地域保健研修を実施している。途上国での経験を踏まえた研修プログラムによる研修を開始して以来、1999年から2010年現在まで、70カ国から712名の研修・視察者を受け入れた。研修員には、JICA 保健医療協力プロジェクトのカウンターパート研修も多い。2008年、2009年には、農村保健研修センターでインドネシア青年研修事業を実施した。2010年は、JICA 事業仕分けや ODA 減額の影響を受けてか、研修受け入れ回数が減少した。海外活動としては、2001年より、国際協力機構（JICA）プロジェクトや JICA 全中と協力して、フィリピンルソン島北部のベンゲット州とマウンテン州において、八千穂村をモデルにした健康管理活動を実施した。本活動は、現在はプロジェクト期間を終了し、フォローアップを実施中であるが、ベンゲット州カパンガン地域で2010年に初めて乳児死亡率（IMR）ゼロを達成し、健康管理をコンセプトにした国際協力活動の成果と考え、現在その要因を評価分析中である。フィリピンでの活動は、研修フォローアップとして最初に実施されたものであり、研修を通じた国際協力モデルとして他の途上国での研修協力活動の参考にしている。2005年より2007年まで、厚生労働省（国際医療センター）の国際医療協力研究班、“途上国における社会開発、地域保健システム強化に関する研究”として、フィリピン、ラオス、ベトナム、セネガルなどで主として保健ボランティア調査をおこなった。この調査活動を踏まえて、2007年度より、ラオスの2県（ビエンチャン県、ウドムサイ県）の10地区約40村で、“保健ボランティア活動強化”と“健康村運動”をコンセプトにした協力活動を実施している。この2県では、健康増進の日を設けて、佐久病院の病院祭にならった全県的な病院祭りも実施している。ラオスでの協力活動を進めるために、2008年から、毎年、北部ルアンプラバンでパートナーとの合同会議も実施しているが、今年度はカンボジアからも参加者があり、2011年より、カンボジアでの新たな協力活動を計画している。このほか、2005年から長野スリランカ友

好協会と連携し、スマトラ沖大地震支援活動として津波孤児の教育支援を実施、2008年に、スリランカ保健省とも協力し、同国に中古医療機器供与した。この間に培ったネットワークを活用して、2009年-2010年にかけて、同国のキャンディ県で、南アジア地域連合村（SAARC village）で、“友好の家：多目的コミュニティーセンター”の建設プロジェクトを開始している。“友好の家”をベースにした“村づくり運動”が目標である。友好の家プロジェクトは、スリランカ青少年大臣の協力も得て、25年の内戦が終わった北部でも、難民帰還支援活動として実施することを検討中である。2009年10月には、横浜で開催されたJA全中農協大会の国際協力セミナーにおいて、これまでの佐久病院の国際協力について、“農村医療と国際協力—交流から協力へ”というテーマで報告をおこなった。2010年には、JICA駒ヶ根研修所で公開講座“農村医療と国際協力”を実施、引き続いて、派遣前研修中の青年海外協力隊員（JOCV）を対象にした同名のボランティア講座を開催している。研修や海外協力活動は、地域保健システムづくりとその管理運営、地域中核病院の役割、保健を通じた村づくり（Healthy Village Campaign）というテーマを掲げて実施し、研修員や国内の研修関係者からは高い評価を受けている。

（国際保健医療科：出浦）

## 2. ANNEX 資料

図1：年次別海外研修視察者（1999－2010年）

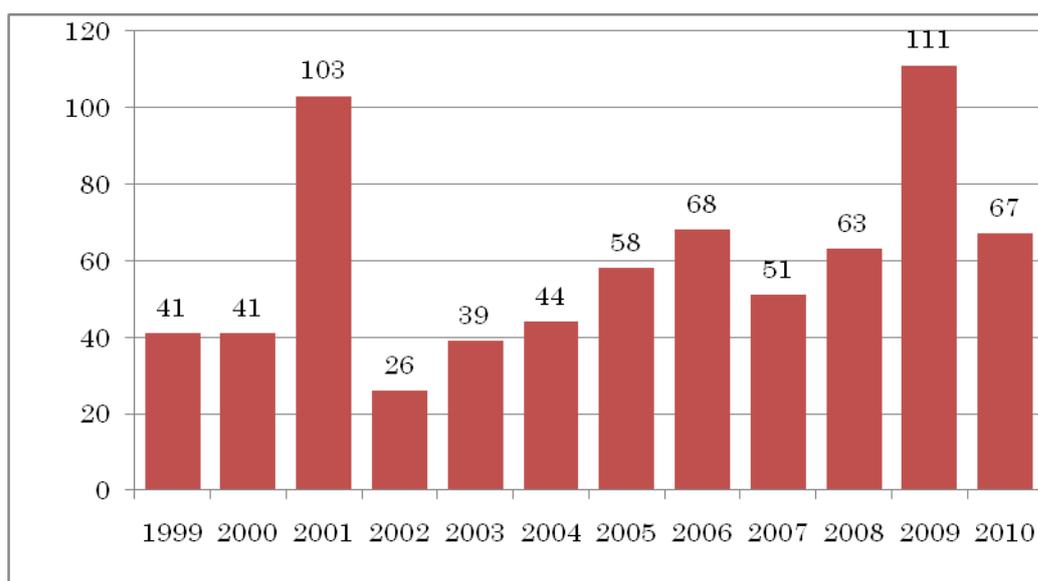


図2：研修視察者の地域別および関係機関別割合  
(70カ国より712名の研修視察者があった)

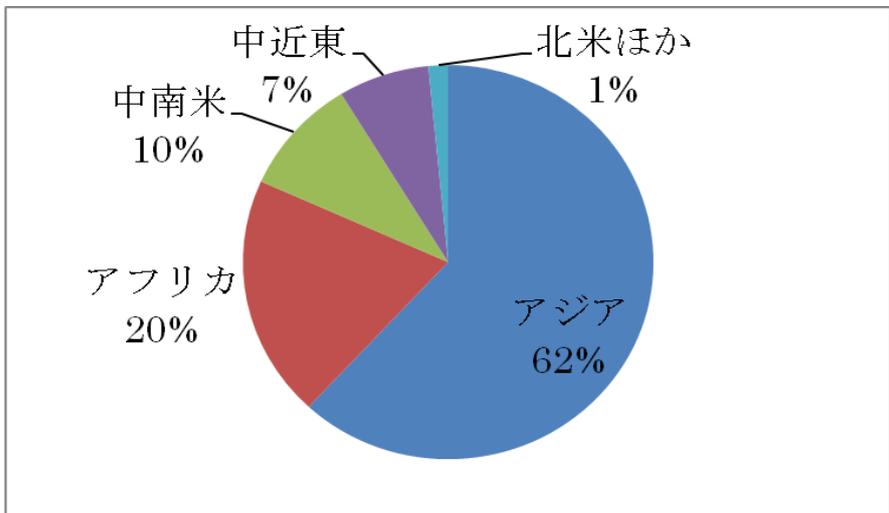
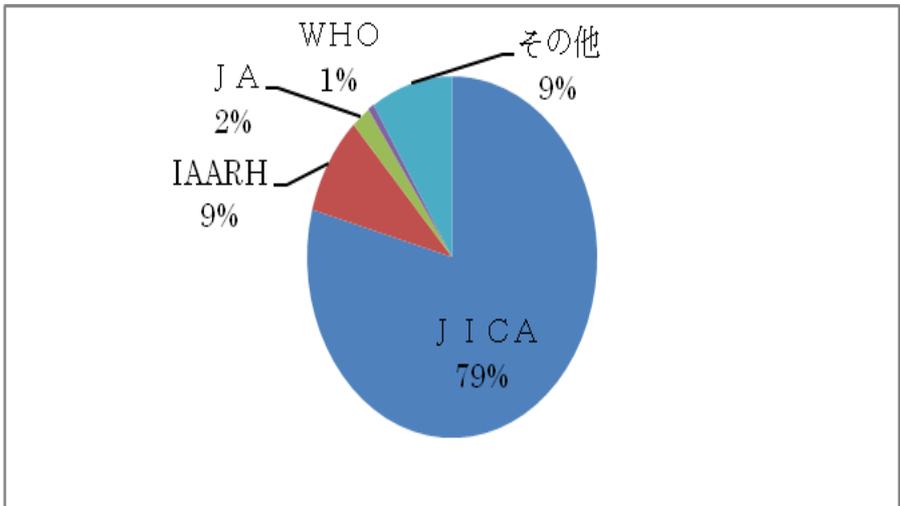


表 1 : 地域・国別研修視察者数(1999年—2010年)

アジア・オセアニア		アフリカ		中南米		中近東		北米		国際機関	
人数		人数		人数		人数		人数		人数	
中国	39	ガーナ	8	ブラジル	3	パキスタン	6	USA	10	WHO	1
フィリピン	59	ケニア	6	メキシコ	2	エジプト	9				
タイ	49	コートジボワール	12	ホンジュラス	7	ジョルダン	4				
中華民国	6	セネガル	20	ボリビア	17	パレスティナ	3				
韓国	17	タンザニア	2	パラグアイ	11	アフガニスタン	16				
ラオス	45	マリ	9	チリ	5	イラク	7				
インドネシア	82	ザンビア	8	ペルー	2	ウズベキスタン	1				
マレーシア	4	モーリタニア	5	パナマ	1	イエメン	5				
インド	7	南アフリカ	1	ドミニカ	8						
バングラデシュ	14	ニジェール	7	コスタリカ	1						
ネパール	20	ブルキナファソ	11	キューバ	2						
ミャンマー	7	ギニア	6	ウルグアイ	1						
ベトナム	65	ルワンダ	1	セントクリストファー	1						
モンゴル	4	マラウイ	5	エクアドル	1						
カンボジア	7	セーシェル	2	グアテマラ	6						
パプアニューギニア	7	マダガスカル	7								
キルギス	3	カメルーン	3								
フィジー	1	ウガンダ	2								
キルギスタン	1	ガボン	1								
ブータン	1	サントメプリンセペ	1								
ソロモン	1	チャド	1								
スリランカ	1	トーゴ	5								
		ジンバブエ	3								
		ベニン	5								
		コンゴ	10								
研修員	440		141		68		51		10		1
国数	22カ国		25カ国		15カ国		8カ国		1カ国		1機関
(総計)	(70カ国+1国際機関)										

(70カ国1国際機関から合計711人：国籍不明1名、名古屋大学YLP等の教育機関からの外国人視察は除く)

写真1 (左)：フィリピンの健康管理活動プロジェクト (2002年～)

写真2 (右)：ラオスの健康村づくりプロジェクト (2007年～)



写真3 (左) : インドネシア青年研修事業 (2009年、農村保健研修センター)

写真4 (右) : スリランカ “友好の家プロジェクトー南アジア地域連合村”



写真5 : 乳児死亡率IMRゼロを達成したフィリピンベンゲット州カパンガンのDr.ラルアン (右端 : 2001年研修員) と農村保健センター (RHU) のスタッフたち。



写真6 : ラオスのルアンプラバン合同会議に参加したパートナーたち (2011年1月)

